



高速アナログ 8CH 920MHz 無線リモート IO

ADX4-A08-920 クイックスタート ガイド

Update 2024-7-8

SAVA Inc.

1.基本動作

ADX4-A08-920RT（親機子機のセット）において、親機と子機 1 台を動作させ、付属ソフトで Windows 上でログを取る。

予め、以下の設定がなされて出荷されます。この設定を変えずに、運用する方法を解説します。

親機のノード ID=1

子機のノード ID=2

親機および子機の動作モード=中距離

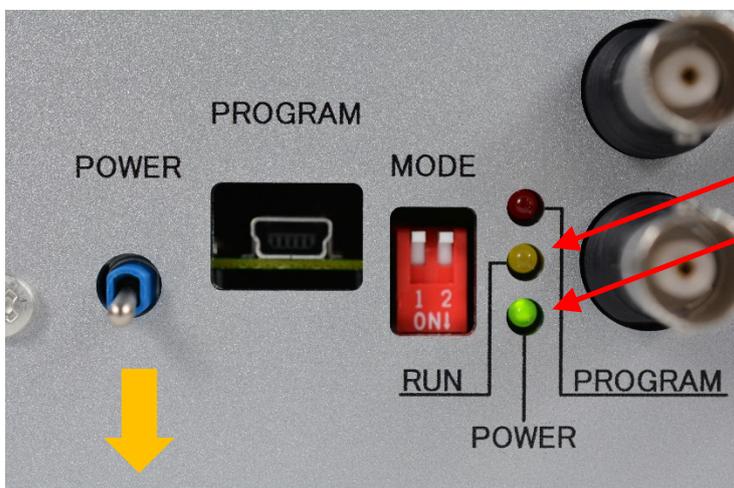
親機および子機のチャンネル=31

子機背面に付属の AC アダプターを接続してください。

AC アダプターを 100V-AC の電源に接続してください。



子機の電源スイッチを押し下げて ON にしてください。（MODE スイッチは 2 つとも上）
緑色のランプが点灯します。時折、黄色のランプが点滅します。



親機の USB ポートと、PC の USB ポートを、付属の USB ケーブルで接続してください。



付属 USB メモリの USB¥ML64 を PC で運用するフォルダにコピーし、この中の AdxfConf.exe を実行します。PC のデバイスマネージャーを開き、親機の COM ポートを確認し、この値を、以下の COM NUMBER の箇所に設定します。

The screenshot shows two windows. On the left is the Windows Device Manager window titled 'デバイス マネージャー'. The 'Ports (COM & LPT)' category is expanded, and 'Silicon Labs CP210x USB to UART Bridge (COM11)' is highlighted with a red box. An arrow points from this box to the 'SERIAL PORT (UART)' field in the 'Configurator ADX4-08-920' window on the right. In the Configurator window, the 'SERIAL PORT (UART)' field is also highlighted with a red box and contains the value '11'. The 'COM NUMBER' label is to the right of the field. Below this are sections for 'SIGNAL CONDITION' and 'ALARM' with tables of values for channels CH0 through CH7.

SIGNAL CONDITION		
UPPER(65535)	LOWER(0)	
10000	0	CH0
10000	0	CH1
10000	0	CH2
10000	0	CH3
10000	0	CH4
10000	0	CH5
10000	0	CH6
10000	0	CH7

ALARM		
UPPER	LOWER	
6000	0	CH0
0	0	CH1
0	0	CH2
0	0	CH3
0	0	CH4
0	0	CH5
0	0	CH6
0	0	CH7

AdxHost.exe を実行します。自動的に、データ収集を開始します。

	CH=0	CH=1	CH=2	CH=3	CH=4	CH=5	CH=6	CH=7	RSSI(%)/Counter
NODEID=02	[5003.74] [5005.87]	[4.58] [5.80]	[0.00] [1.22]	[3.36] [4.58]	[1.83] [3.05]	[3.05] [4.58]	[4.88] [6.71]	[4.88] [16.78]	[88.63] [5705]
NODEID=03	[167.85] [462.35]	[7056.53] [5880.06]	[4703.59] [3527.12]	[2350.65] [1174.18]	[630.05] [1963.38]	[3296.71] [4630.05]	[5963.38] [7296.71]	[669.26] [2002.59]	[89.41] [5705]
NODEID=04									
NODEID=05									
NODEID=06									
NODEID=07									
NODEID=08									
NODEID=09									
NODEID=10									
NODEID=11									
NODEID=12									
NODEID=13									

“AdxHost.exe のあるフォルダ¥LogFile¥yyyy_mm_dd”に、“IDcc_hh_MM_ss.csv”という名称の計測ファイルが生成されます。yyyy は西暦、mm は月、dd は日、cc は子機の NODEID 番号、hh は時、MM は分、ss は秒です。日時はファイル生成の瞬間を示します。

終了するには、ソフトウェアの EXIT ボタンで、ソフトウェアを終了させ、その後、子機の電源を切る→親機の USB を抜きます。これらの終了手順は、特に順不同でも問題はありません。

2.子機 2 台目の追加

(現状 親機ノード ID=1、子機 1 台目ノード ID=2)

子機 1 台目は電源 OFF にしておきます。

子機 2 台目の背面に付属の AC アダプターを接続してください。

AC アダプターを 100V-AC の電源に接続してください。



子機 2 台目前面の USB ポートと PC を接続してください。

子機 2 台目前面の DIP スイッチを押し下げてください。

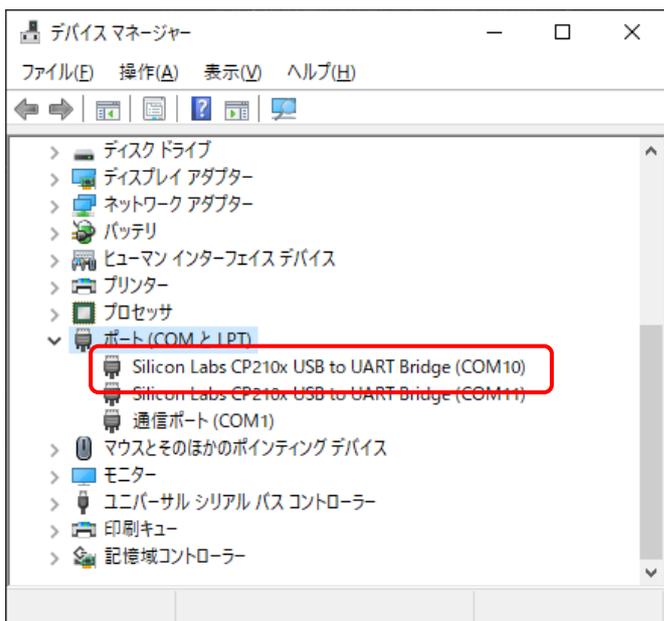
子機 2 台目の電源スイッチを押し下げて ON にしてください。

緑色と赤色のランプが点灯します。

時折、黄色のランプが点滅します。



PC のデバイスマネージャーを開き、子機の COM ポートを確認してください。
COM11 は前述の親機なので、子機 2 台目は COM10 という事になります。

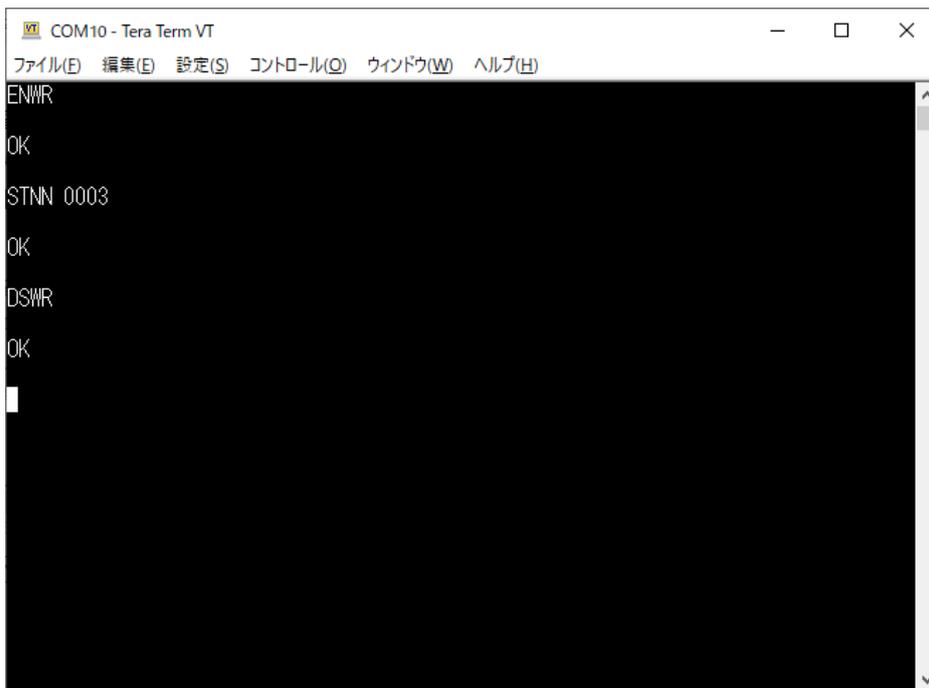


既存のターミナルソフトを使い (TeraTerm など)、調査した COM 番号 COM10、19200bps、8bit、パリティなし、ストップビット 1、フロー制御なし、改行コード送受信ともに CR+LF、ローカルエコーありで接続します。TeraTerm だと以下の通りです。



半角英数字で以下のコマンドを入力して、子機 2 台目のノード ID を 3 に設定します。(レスポンスは子機 2 台目から返される文字列です)

コマンド入力 (パラメータ書き換え許可)	ENWR
レスポンス	OK
コマンド入力 (ノード ID=2 の場合)	STNN 0003
レスポンス	OK
コマンド入力 (パラメータ書き換え禁止)	DSWR
レスポンス	OK

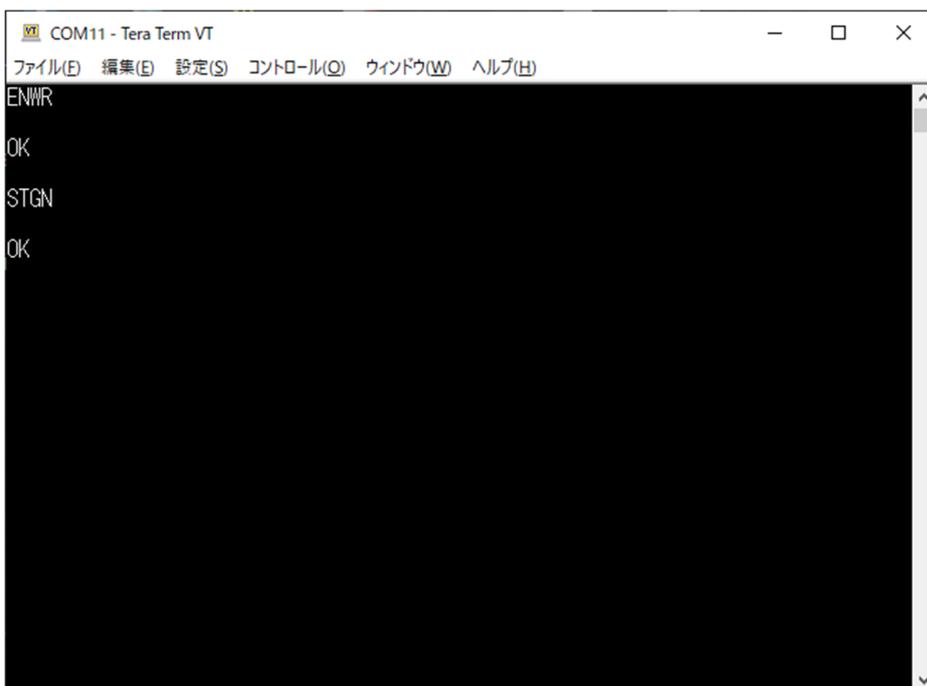


子機の USB 接続はそのまま維持した状態で、親機も PC に USB 接続し、親機の COM 番号 = COM11 (デバイスマネージャで調べた値)、460800bps、8bit、パリティなし、ストップビット 1、フロー制御なし、改行コード送受信ともに CR+LF、ローカルエコーありで接続します。TeraTerm だと以下の通りです。



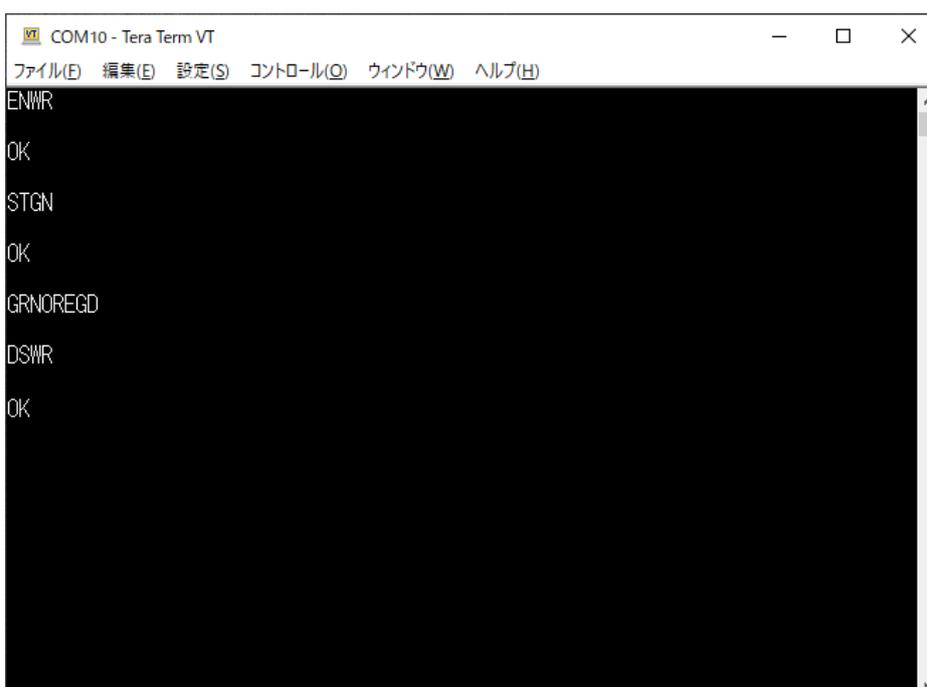
親機 (COM11) のターミナルソフトで以下のコマンドを打ちます。

コマンド入力 (パラメータ書き換え許可)	ENWR
レスポンス	OK
コマンド入力 (グループ受付)	STGN
レスポンス	OK



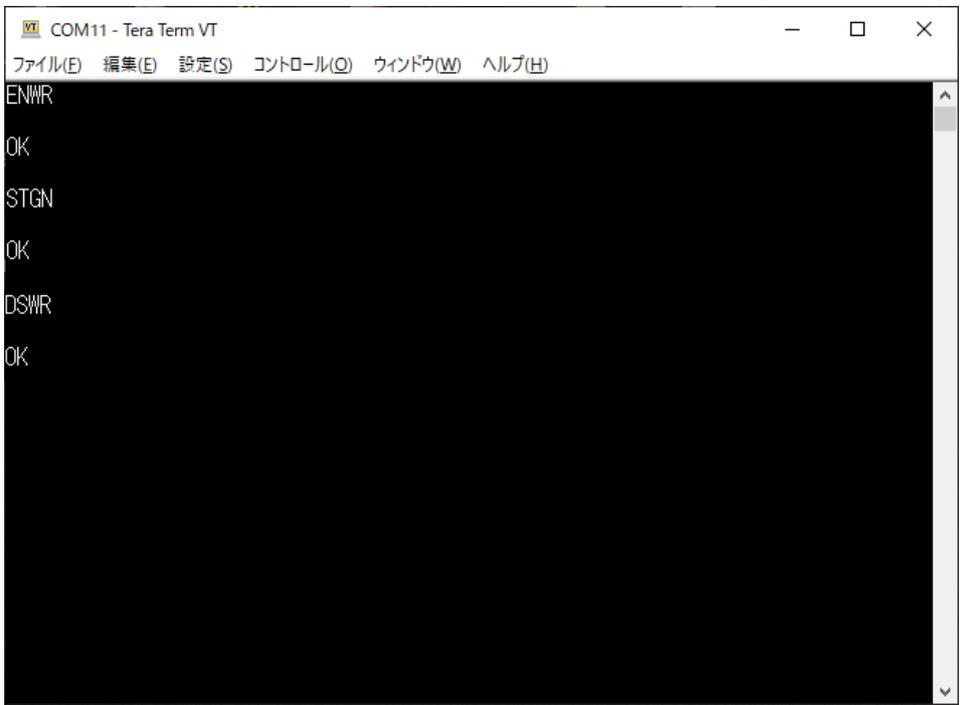
子機 2 台目 (COM10) のターミナルソフトで以下のコマンドを打ちます。

コマンド入力 (パラメータ書き換え許可)	ENWR
レスポンス	OK
コマンド入力 (グループ開始)	STGN
レスポンス	OK
レスポンス (少し時間経過)	GRNOREGD
コマンド入力 (パラメータ書き換え禁止)	DSWR
レスポンス	OK



親機 (COM11) のターミナルソフトで以下のコマンドを打ちます。

コマンド入力 (パラメータ書き換え禁止)	DSWR
レスポンス	OK



子機 2 台目の電源スイッチを押し上げて電源を切ります。
USB ケーブルを外し、DIP スイッチを全て押し上げておきます。
これで子機 2 台目もグループ化されました。

3.親機と子機 2 台を動作させる

これまでの状態で、以下の設定になっています。

また親機の COM 番号は既に、周知で、かつ AdxConf.exe に設定されている状態です。

親機のノード ID=1

子機のノード ID=2、ID3

親機および子機の動作モード=中距離

親機および子機のチャンネル=31

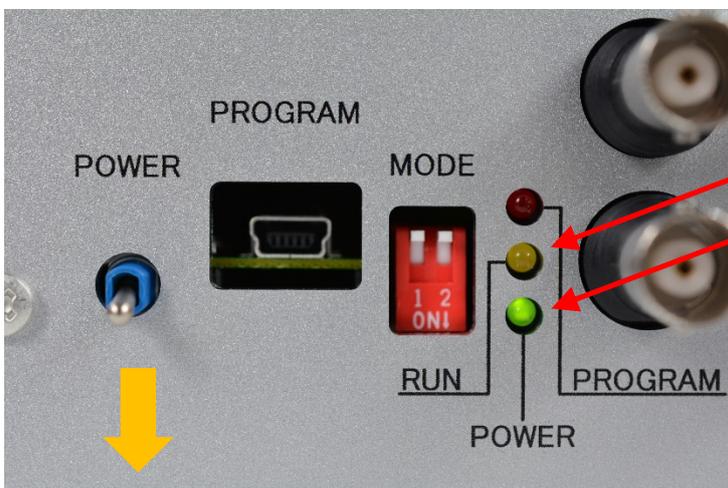
子機 2 台それぞれの背面に付属の AC アダプターを接続してください。

AC アダプターを 100V-AC の電源に接続してください。



子機 2 台のそれぞれ電源スイッチを押し下げて ON にしてください。

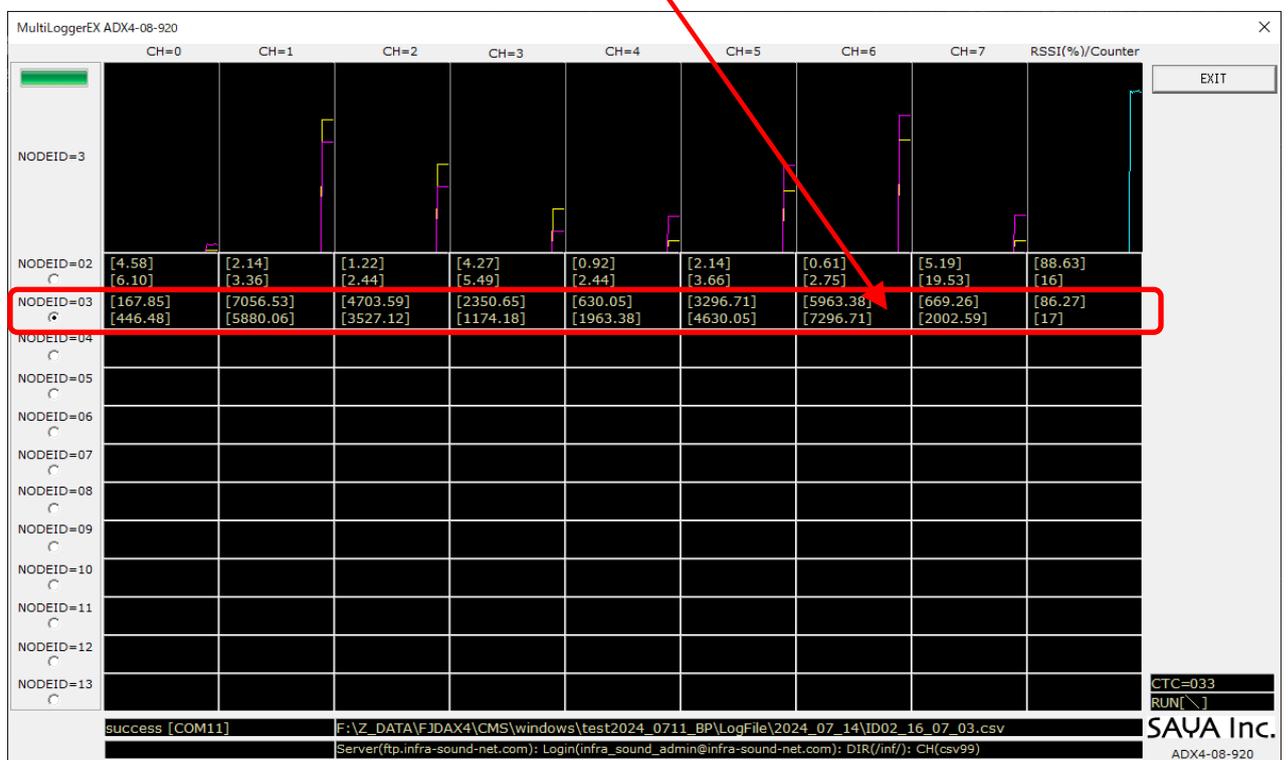
緑色のランプが点灯します。時折、黄色のランプが点滅します。



親機の USB ポートと、PC の USB ポートを、付属の USB ケーブルで接続してください。



AdxHost.exe を実行します。自動的に、データ収集を開始します。
NODEID=03 の行が、追加された子機のデータです。



“AdxHost.exe のあるフォルダ¥LogFile¥yyyy_mm_dd”に、“IDcc_hh_MM_ss.csv”という名称の計測ファイルが生成されます。yyyy は西暦、mm は月、dd は日、cc は子機の NODEID 番号、hh は時、MM は分、ss は秒です。日時はファイル生成の瞬間を示します。

終了するには、ソフトウェアの EXIT ボタンで、ソフトウェアを終了させ、その後、子機の電源を切る→親機の USB を抜きます。これらの終了手順は、特に順不同でも問題はありません。